平成 28 年度　第１回　行政改革推進委員会　議事録（要旨）

１　日　時　平成 28 年 11 月 30 日（水）　10 時 00 分～12 時 00 分

２　場　所　糸島市役所　本庁舎南側車庫２階　11 号・12 号会議室

３　出　欠

(1) 出席者

（委　員）村藤会長、徳田副会長、渡邉委員、石川委員、井上委員、岩井委員、山﨑委員、大城委員、十時委員、林委員、廣川委員、藤原委員

（事務局）洞部長、山﨑企画監、久我係長、西原主査、富村主査

(2) 欠席者

（委　員）中野委員、南委員

(3) 傍聴者　　なし

４　会議結果

【会議次第】

１　委嘱状交付

２　会長あいさつ

３　協議

（１）平成２８年度外部点検（試行）の実施について　（事務局説明）

４　その他　　（次回推進委員会は、12 月 22 日開催予定）

【議事概要】

■協議

（１）平成２８年度外部点検（試行）の実施について

※まず、事務局より「第１次糸島市長期総合計画」と「糸島市行政評価制度」について説明し、質問を受ける。

●A委員

・前期基本計画と後期基本計画では、施策はどの程度異なるのか。

●事務局

・基本構想において 10 年間の基本目標と政策を決定しているため、基本計画では政策の下の施策を決定する。政策までは同じなので、基本的には前期と継続性を保つかたちで後期の施策を設定している。前期基本計画では 96 の施策を設定していたが、後期基本計画では 66 の施策を設定した。目標達成した結果廃止したものもいくつかはあるが、多くは統廃合によるもの。また、新たな課題解決のため設定したものもある。

●A委員

・後期基本計画を策定する際には、前期基本計画の評価を実施したのか。

●事務局

・総合計画審議会を設置し、前期の評価を行ったうえで、後期の策定に入っている。

●事務局

・後期基本計画の冊子のｐ24 以降に、前期基本計画の実績と評価を記載している。

●A委員

・了解した。

※次に、事務局より外部点検実施要領、点検基準等について説明し、協議に入る。

●B委員

・点検施策について、除外基準を適用すると８施策残るということだが、８施策から４施策を選定するには各施策の内容がわからないと選定が難しい。事前に資料をもらえるとのことだが、予算規模や評価基準、担当課が課題ととらえていることなどを記載した資料が欲しい。

●事務局

・可能な限り準備したい。評価基準とは、成果指標という理解でよいか。

●B委員

・よい。

●C委員

・点検シートについて、点検の視点が５つ示されており、その視点に沿った点検がしやすいのは修正前のシートだと思う。今日配付された修正後のシートでは、簡便になりすぎている気がする。

●D委員

・点検の視点は、各点検員が認識しておけばよく、例えば評価の視点を書いた補助シートなどを活用する方法などでよいのではないか。最終的には総合的な判断を記載する方が、点検シートをもらう職員側もやりやすいのではないだろうか。

●C委員

・また、修正後のシートでは「◎、○、△」を抽象的に記入するようになっており、修正前の「高、中、低」の方が具体的でわかりやすいと思う。

●事務局

・今回の外部点検は「仕分け」ではないので、事業の廃止や要改善などの区分を決めるものではない。外部点検の重要な部分、アウトプットとしては、点検会議の中で出てきた意見、コメントだと考えている。しかしながら、ある程度の可視化ができた方がよいと考え「◎、○、△」を記入する方法とした。

●A委員

・外部点検は、その結果がどう活用されるかが重要である。様々な意見を受け止め、担当部局が考え、どうするかを決めることになる。考えることそのものが重要だと思う。外部点検を言葉は悪いがギスギスやるのは好ましくないと思う。最終的にどう活用するかは行政側の裁量なのだから。点検シートを受け取った側がどう使うかを考えると、コメント欄もあるのだから、修正後のシートでよいのではないかと思う。

●B委員

・点検シートの使い道を考えると修正後のシートでもよいと思う。改善すべきだなと思

うところは、コメント欄に記入すればよいのでは。そのコメントを参考にして、行政側の自律的なスクラップ＆ビルドを促すことにもなる。

●事務局

・点検の視点を記載した補助シートが別途必要であれば準備する。次回の委員会で案を示したい。

●A委員

・補助シートまで作成せずに、修正後の点検シートの事業名の右側に点検の視点を記載すればよいのではないか。

●事務局

・点検シートについて補足する。点検シートは各点検員個人の点検結果や意見を書いてもらうもので、外部点検当日の取りまとめとして、シートの内容等をコーディネーターがまとめ、講評を行う。また、後日事務局で、点検した４施策についての外部点検報告書を作成し、それを行政改革推進委員会としての結果報告とする予定である。報告書には、外部点検で見えてきた課題や意見などを文章で記載する予定である。外部点検は「仕分け」ではないので、「廃止」や「縮小」といった区分での判定は行わない。あくまで文章での報告を考えている。点検シートが点検結果のすべてではないことをご理解いただきたい。

●C委員

・◎、○、△の数ではなくて、コメントを重要視したいということならば、コメント欄がたくさんある点検シートの方がよいので、点検の視点は別紙にしてほしい。

●事務局

・点検会議の中では、コーディネーターがホワイトボードを使い、各点検員の意見を書き留めたり、議論をまとめたりしながら進める。ホワイトボードを使うことで議論の可視化ができ、共有ができるので、ホワイトボードに書かれたものが、ある程度のまとめになる。よって、点検シートに全ての意見を記入しなくてもよい。特に強く言っておきたい意見や時間的な都合で言えなかった意見などを書いてもらうことを想定している。また、報告書では全ての意見をとりあげるのではなく、点検会議の中で共有された、一定の理解や同意を得た意見をまとめるつもりである。

●A委員

・外部点検は意思決定するわけではなく、点検結果の報告書も、あくまで総意であって、合意ではない。各点検員は専門性も違うのだから、個人としての意見を点検シートに記入すればよく、それを受け取る行政側もあくまで参考意見として受け取ることしかできないと思う。

●C委員

・了解した。しかしながら、やはり、コメント欄は大きい方が書きやすいと思う。

●E委員

・コメントが書ききれない場合は、２枚になってもよいのでは。

●事務局

・もちろん、１施策に複数の点検シートを使っていただいても構わない。点検シートについて様々なご意見をいただいたが、コメント欄をある程度確保するという意味でも、

点検の視点は別紙にすることでよろしいか。

≪各委員了承≫

・では、点検の視点を記載した補助シートを次回の委員会で示したい。

●D委員

・施策を選定する際の除外基準によって、複数の課の事務事業が紐付く施策は除かれているが、除外された施策の中には重要なものもあると思う。除外された施策については、どのような場で評価がされるのか。

・また、計画期間が３年の実施計画と外部点検との関係はどうなるのか。

●事務局

・複数の課の事務事業が紐付く施策についても、外部点検は必要だと考えているが、今年度初めて施策単位での外部点検を行うことから、複数課を一緒に点検するのは難易度が高いとの考えで除外とした。外部点検は今後も継続して行う予定であるので、今後、外部点検に対する組織の成熟度が高まっていく中で複数の課の事務事業が紐付く施策についても考えていきたい。

・外部点検の対象には、実施計画事業とそうでない事業の両方がある。両方とも、点検結果を活用し、翌年度以降の事業の改善に役立てていくことになる。

●D委員

・実施計画事業は３年間だから、３年間のどこで評価するかがポイントだと思う。また、実施計画事業の中で評価する事業、しない事業があるというのは、総合計画を総合的、全体的に推し進めるうえでいかがなものかとも思う。

●事務局

・実施計画事業の外部点検をどういったスパンで行うのが効果的かについては、今後検討していきたい。

●A委員

・評価する事務事業が何年目の事業で、今後何年継続するかによって、評価のあり方が変わってくるのだと思う。１年間の事業を終了後に評価しても、今後その事業は行わないのだからあまり効果的ではないと思うし、３年間の事業を１年目で評価するのなら、残り２年間でより効果的にできるのではないかという視点で評価できると思う。

●B委員

・事務事業の改善に外部点検結果を反映させるという視点においては、事務事業の実施期間のどのタイミングで外部点検を実施するかはポイントになると思うが、実施期間がまちまちなこともあり、なかなかうまく調整できないのが実情だろう。

・糸島市では、政策を部長、施策を課長が進行管理するということのようだから、全体計画である総合計画の中で施策や事務事業がいかに効果的に推進されるかという視点が重要と思う。

・外部点検では、事務事業ポートフォリオの最適化を目的としているのだと思う。全ての施策を点検する必要はないと思う。実際に事業を行ううえで、問題のある施策について外部点検していくという考えでよいと思う。

●F委員

・班分けについてだが、A班が２月１４日、B班が２月２２日ということか。

●事務局

・そのように考えている。日程的に参加が困難であれば、班の入替えも可能である。都合の悪い委員はおられるか。

≪都合の悪い委員なし。班分けについて、各委員了承≫

●A委員

・平成２４年度から２６年度まで実施した外部評価は公開で、ある意味イベント的なものだった。今年度の外部点検はイベント的な開催はしないとのことだが、その意図は何か。

●事務局

・イベント的にするよりも、点検員と職員との対話を重視したいという考えがある。また、施策単位での外部点検は今年度が初めてで試行でもあり、状況を見ながらより多くの市民の方に公開できる形にしたい。

●B委員

・点検員も職員も慣れてから、徐々に公開のレベルを上げていくというのでもよいと思う。

●G委員

・市民協働の視点からも積極的に公開していってほしい。例えば、学校と連携して、高校生や中学生に傍聴してもらうという案もある。

●H委員

・過去の外部評価では、何人くらいの傍聴者があったのか。

●事務局

・平成２６年度は、約８０人。そのうち、約半数が市職員であった。

●H委員

・過去の外部評価では、一般の市民の傍聴に関して、広報などを行ったのか。

●事務局

・広報、市ホームページでの周知と、市民モニターや行政区長宛てに個別案内状を郵送した。

・今年度も、非公開ではない。市ホームページでの周知は行う予定で、傍聴は可能である。しかし、イベント的にはせず、個別案内状などの発送はしない。

●C委員

・市民との情報共有という視点でも公開は進めてほしい。

●事務局

・公開のあり方については、今後の検討課題としたい。

≪各委員了承≫